

集会宣言

福島原発事故を風化させない。被害者を孤立させない。つながりあって進んでいこう

あれからもうすぐ5年。

いま、福島原発事故の被害者たちは、懸命につながりあい、前を向いて進み始めています。

政府は原発事故をなかったことのように、原発事故子ども・被災者支援法を骨抜きにし、被ばく影響を無視し、帰還を強要し、人間の視点なき復興を進めようとしています。これにより、避難者は「被ばくか、貧困か」の選択を迫られています。

私たちはこれを認めません。私たちはこれを許しません。

被害者をつながり、支える為の大きな輪をつくり、一歩ずつ前に進んでいきましょう！

行動1.

人権、差別問題、貧困格差問題、平和や脱原発、環境、協同組合など様々な社会運動とのネットワークとつながりあい、原発事故被害者の救済を実現する運動を広めていきましょう。

行動2.

2016年夏に実施される参議院選挙に向けて各政党、議員候補者への働きかけを強め、マニフェストや候補者ひとりひとりの政策に被害者への支援策を盛り込んでいきましょう。国会の内外で、国会議員と市民による協働連携を強めていきましょう。

行動3.

自治体や自治体議員、地域団体、NPO、協同組合にも働きかけ、あらゆる知恵をだしあい、様々な方法で被害当事者が切り捨てられる事がないよう動き出しましょう。

行動4.

健康影響を把握するために、市民側でも情報共有の仕組みをつくりましょう。市民側が取組んでいる検診活動や各測定活動などの連携を更に広げましょう。

行動5.

原発事故被害者団体連絡会、「避難の権利」を求める全国避難者の会を支えましょう。被害者をつながり、被害者を支えるために運動を広め、運動を可視化していきましょう。

行動6

避難の権利と健康に生きる権利を実現し住宅支援と賠償打ち切りを撤回させましょう。

2015年12月5日

「原発事故被害者の切捨てを許さない東京集会」参加者一同